

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	温泉ORP講習会及び各施設でのORP検査実施事業
事業主体 (連絡先)	野沢温泉源泉かけ流しの会 野沢温泉村大字豊郷 9541
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業 (ア)特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,768,620 円 (うち支援金:1,299,000 円)

事業内容

野沢温泉村は自治体名に「温泉」が着く唯一の村。そこで温泉を使って事業を営む事業者そして村民はもっと温泉について最新の知識を得ていなければより良い温泉地とは言えない。

そのため、村民向けの一般講演会と温泉事業者向け勉強会を行うと共に、それぞれの温泉の「鮮度」を測るORP検査を行い意識向上と知識を得る場を設けた。

【講演会・勉強会事業】9月12日開催、約90名の参加。

【ORP検査事業】

9月18日・19日実施。35施設の温泉事業所が参加。



【勉強会の様子】

【目標・ねらい】

- ① 村民の「温泉村」への意識向上
- ② 一般村民の参加
- ③ 最新の温泉科学の知識取得

※自己評価【 A 】

【理由】

専門家による解説で、最新の温泉に関する知識を温泉従事者のみならず広く一般にも知ってもらえた。

事業効果

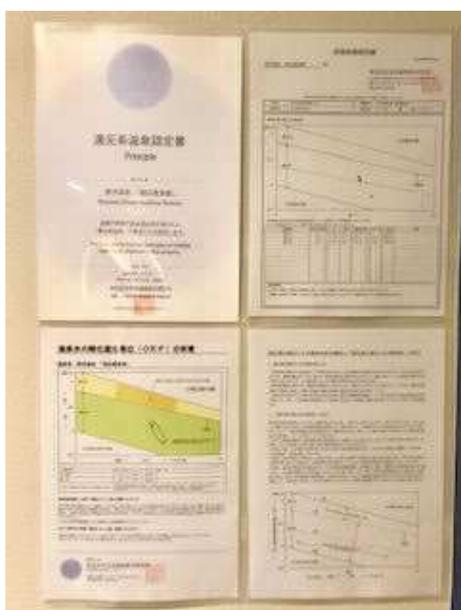
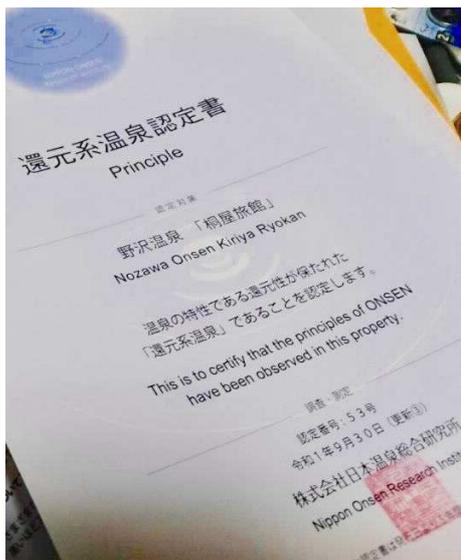
- ① 新聞折り込みで村内のほぼ全戸に勉強会のチラシを折り込み、趣旨や温泉居対する興味を喚起した。
- ② 一般参加者は約60名。村民3500名程の村としては住民を集める事が出来た方と思う。講習会・勉強会の様子は村内ケーブルテレビで何度も放送して戴いた。参加者の中には普段グラフや数値を見慣れない年配者、主婦、子供連れの若い夫婦などもいたが、分かりやすくかみ砕いた説明が行われ、温泉の鮮度の重要性を皆、真剣に聞き入っていた。「難しい説明は出来ないが、温泉と水道水の肌への効果の違いや、どうして新鮮な温泉でなければならぬのか分かった。」

「野沢温泉の温泉力をお客さんへも伝えていきたい。」「ここで育ったので、かけ流しが当然と思っていたが恵まれた事だと理解した。」との声が聞けた。

- ③ 温泉事業者向け勉強会では実際に温泉を使った実験も取り入れ、温泉の「鮮度」の違いや重要性を理解できた。実験に参加した外湯を含む施設関係者は、「聞いて理解するのと目で見るのとでは、さらに理解度が高まった」「リンゴの酸化(茶色へ変化する)は色で分かりやすく、納得できた。」等イソジンやリンゴなどの身近な物を使った実験が理解度を高めた。
- ④ ORP検査では源泉かけ流しの会会員施設、外湯13か所、行政管理施設の「ふるさとの湯」、(株)野沢温泉(スキー場)が管理業者となっている「スパリーナ」すべての施設で検査が実施され、1軒も漏れることなく還元系温泉認定書が発行され、新鮮な温泉がそのまま浴槽まで注がれている事を科学的に証明して頂いた。

(別記様式第12号)(第3の8関係)

認定書は各施設の浴室付近に掲げられ、新鮮な温泉提供をしていることを公表している。



また、会員以外の温泉宿泊施設から趣旨と目的に賛同した方があらわれ、検査を実施した結果、認定書が発行されたので、来期から新たに会員となることが決まった。

今後の取り組み

温泉に関する勉強はこれで終わりではなく、機会を設けては更なる勉強を進めたい。唯一の「温泉村」に住む住民として、事業者として「誇り」を持って温泉という資源を活かしたまちづくりを行っていく。

- ※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある